

タイム・カプセル  
(Time Capsule)Eduardo KAC  
エドゥアルド・カック

白井雅人 訳

Translation: SHIRAI Masato

(Time Capsule)は1997年11月11日、ブラジル、サンパウロの文化センターCasa das Rosasにおいて実施された。これは、ローカルなイベント=インスタレーションであり、私の身体と遠隔地のデータベースをサイトとするサイト・スペシフィックな作品であり、インタラクティブな体験であり、TVとWebでの同時生放送であるようなプロジェクトである。このプロジェクトのタイトルは、IDナンバーをセットされ、コイルとコンデンサーとともに生体適合性をもつガラスの中に封入されたマイクロチップにちなんだものだ。プロジェクトが行われたギャラリーで観客が目にするものは、医療の専門家のほか、1930年代に東欧で撮影された7枚のセピア色の写真、水平なベッドの架台、Webを使用できるオンラインのコンピュータ、遠隔操作されるロボットの指、そして放送のための特別な装置などであった。基本的な手順として(そしてプロジェクトを完結させるために)、私はまず足首の皮膚を消毒し、特殊な針を使った皮下注射によりマイクロチップを挿入した。交換を要する電源や消耗する可動部をもたないパッシブな自動応答装置である。インターネットを通

じて遠隔的に行なわれる<sup>テレプレゼンス</sup>移植物のスキャンは低エネルギーのラジオ信号(125kHz)を発生し、これによってマイクロチップはエネルギーを与えられて、変更されることのない唯一の数字コードを発信する。この数字はスキャナ上の16桁の液晶表示装置(LCD)に表示される。このデータを得るとすぐに、私はWebを通じて、アメリカにある遠隔データベース上に自分自身を登録した。この(Time Capsule)は、体内にデジタル・メモリを存在させ、ネットワーク・ノードとしての身体の透過性を探り、デジタル文化におけるオルタナティブな体験についての考察を行なう作品である。



エドゥアルド・カック——ブラジル生まれ、シカゴ・アート・インスティテュート助教授、テレプレゼンスやロボティクスなどの技術を取り入れた作品から、電話、映像、ホログラフを使用するなど多様な作品を制作、「レオナルド」誌の編集員でもあり、執筆・評論活動でも注目を浴びている。

しらい・まさと——1959年生まれ、マルチメディア美学、情報デザイン論、成安造形大学非常勤講師。



1——左足にうめこまれたマイクロチップのX線写真  
2,3,4——1930年代ワルシャワで撮影された家族写真